鼎談

地域共生社会の実現に向けて

～住んで良かったと思える、生き生きと自分らしく暮らせる地域に～

社会福祉法人
宮城県社会福祉協議会
会長 **加藤 睦男**

東北学院大学
教養学部地域構想学科
教授 **増子 正** 氏

特定非営利活動法人
全国コミュニティライフ
サポートセンター
理事長 **池田 昌弘** 氏

はじめに

加藤

まず、このテーマを設定した主旨について説明します。「共生社会」という言葉は、平成28年に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」に盛り込まれました。高齢化の中で人口減少が進み、孤立、ダブルケア、8050問題等、福祉ニーズが多様化している中、子どもや高齢者、障害者等住民が地域において自分らしく暮らしていける社会を幅広い住民の協働と参画によって作っていこうということで、「地域共生社会の実現」が言われ始めました。

宮城県では第4期地域福祉支援計画において、市町村や関係機関と連携を図りながら、また、被災地で行われてきた被災者支援の経験を生かして、地域共生社会の実現に取り組むこととしています。その足掛かりとして、プラットフォームとなる（仮称）「宮城県地域福祉推進会議」が設置されることになります。この会議には宮城県とともに宮城県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）も一体となって関わっていくことになるので、参考になるお話をいただきたいとテーマを設定しました。

では増子先生、最初に地域共生社会の実現に向けて大学で取り組まれていることをお聞かせください。

SDGs※と地域共生社会の目指すところは同じ

増子

大学として地域共生社会の実現に向けてという文言を教育理念や教育目標に掲げているわけではありませんが、普段私が関わっている中で、地域共生社会とつながるかなというお話しをさせていただきます。

SDGsの達成に取り組むことは、持続可能な地域を作ることになりますし、全ての人が住み続けられるまちづくりにつながることになります。すなわち目指すところは同じだと思います。

地域構想学科では、人と自然、社会と産業、健康と福祉という三つの領域から、地域の課題解決にアプローチしています。一つ例を紹介しますと、健康と福祉の領域では、地域の方たちと一緒に、買い物に不自由を感じている高齢者の安否確認を兼ねた買い物支援に取り組んでいます。

SDGsを意識した教育・研究活動が地域づくりにつながって、安心して暮らしやすいまちづくりに、地域共生社会の実現につながっていくものだと感じています。

加藤

ありがとうございます。では池田理事長、法人としての取組はいかがですか。

東日本大震災で経験した「地域で支え合うことの大切さ」を伝え続ける

池田

私ども全国コミュニティライフサポートセンター（以下、「CLC」という。）は、1999年に、誰もが地域で普通に暮らせる社会の実現を目指すことを理念に発足したので、その意味では地域共生社会を目指す団体だったとあらためて感じます。小規模多機能ケアや地域共生ケア、ユニットケアなどを、全国で先駆的に取り組んでいる方々と一緒になって、制度に結びつける活動を行ってきました。

10年前の東日本大震災の際には、今までのつながりが切れてしまった被災者の新たなつながりづくりを支援する生活支援相談員等に関わり、地域支え合いに関わる様々な研修に生かしてきました。そして、この研修は、その後の生活支援コーディネーター養成研修につながりました。

もう一つ、仙台市内で24時間、365日いつでも受け止める居場所の取組も行っています。運営には連合町内会長や町内会長、地区社協会長等に関わっていただいて、地域も一緒になって関わることが地域共生社会なんだということを実感しています。

加藤

ありがとうございます。増子先生、先生ご自身の活動で地域共生社会実現の延長線上にあるお話など、お伺いできますでしょうか。

子どもたちは遊びながら多様性や工夫を学び、地域共生社会実現の担い手になる

増子

私は子どもたちと遊ぶ活動を15年ほど続けています。子どもたちと学校に泊まったり被災地を訪問したり、茅葺屋根の材料にもなる葦（あし）を使って縄文人が乗っていただろうと推測される5メートルほどの草舟を作って広瀬川で乗ったり。その活動に地域の高齢者の方々が一緒に食事を作ったり、いろいろお手伝いしていただいています。自然に異世代交流と相互理解が生まれていると思います。

もう一つ、車いすバスケットボールの体験を、パラリンピックに出場したチームの方に来ていただいて行いました。子どもたちはその中で、種目やルールを工夫することで誰でもスポーツに参加できるんだと学んだと思います。地域の中でもいろんな人たちが暮らしているわけですから、その人たちと暮らしていくために、何かを工夫することで共に暮らせることを、遊びながら知ってもらえれば、いずれ意識しなくても地域共生社会の実現の担い手になってくれると良いな、という思いで活動しています。

加藤

楽しみながら異世代交流をしたり、高齢者の生きがいになったり、自分たちのいる社会は多様な人たちで構成されていることを学んだりする、とても良いお話ですね。

では池田理事長のパーソナルな活動についてお話しいただけますか。

リアル遠距離介護者として地域から学んだこと

池田

増子先生のお話を伺って、地域には様々な課題はありますが、高齢者や障害者、地域の方々が、自分のできることを生かし、みんなで活躍し合うことが結果として地域課題の解決につながっていると思います。

実は今私はリアル遠距離介護者になっています。母親が救急搬送されて、ダウン症の弟が初めて自分で一人暮らしをすることになりました。私が外に出てから移り住んだ所なので、私はご近所さんをよく知りません。今回向こう三軒両隣のお宅に、ひと月の間

※SDGs（持続可能な開発目標）2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。